

2024年9月1日 【清真学園 校長室だより】 大学入試の季節

かつて大学入試と言えば極寒の季節と相場が決まっていたましたが、現在では、夏、9月上旬には実質的に入試がスタートします。この時期になると、学校推薦型選抜と総合型選抜の校内出願が始まり、来年3月の国公立大学後期まで、現在の入試制度は、実に長期にわたる多種多様なものとなっており、受験生達は、どのタイプの入試に挑むかの選択をまずは迫られることとなります。

各大学の抱える経営上の問題や共通テストの難化など、様々な社会的背景がもたらす現行のシステムではありますが、大学入試全体のかなり大きな部分が前倒しされていることは紛れもない事実であり、高校現場では様々な対応を迫られています。

しかし、どのような入試制度を活用しようとも、清真の卒業生には、とにかく納得度の高い進路先を手に入れて欲しいと願っています。これは決して、偏差値ベースの難易度の高い大学ということの意味しません。自分が本当に学びたいことを実際に高いレベルで学べ、将来の夢を実現できる可能性が限りなく高い場所という要件を満たす、自分にとって最適な大学を見つけ出すことを意味します。

自分自身の大学受験の記憶をたどってみると、合格したこと自体は大きな喜びでしたし、受験勉強がようやく一区切りついた安心感と、これからの大学生活に漠然と期待するものがありました。そして何となく人生が開けていくような、ゆったりとした気分になっていたような気がします。

しかし、人生はそんなに甘くない。これから受験に挑む高3生にあえて言葉をかけるとすれば、大学に受かる落ちるというのは、その後の長く続く起伏のある人生から見れば、必ずしも大きな出来事ではないということです。

進路先を熟慮し、その上で結果を恐れず果敢に大胆に入試に挑んで欲しい。納得できる挑戦をすれば、その合否に関わらず、そのプロセスの中で得るものこそがその後の人生に大きなプラスをもたらしてくれる、そのことだけは間違いがないと確信しています。